

## 福井市自然史博物館に収蔵されているライオン臼歯 —1959年 台風7号によるサーカス団の被災—

田中 嘉寛\*

A molar of a lion, has been deposited in the Fukui City Museum of Natural History  
—A circus suffered the typhoon Georgia in 1959—

Yoshihiro TANAKA\*

(要旨) 福井市自然史博物館に獣骨として収蔵されていた断片的な骨格標本があるが、その中に含まれていた下顎第一前臼歯を用いて再同定を行った。その結果、下顎第一前臼歯がパラコニッドとプロトコニッドの2咬頭が鋭い刃を形成するネコ科の特徴、プロトコニッドの傾斜が凸型であること、下方のエナメル縁が強くS字状にカーブすること、プロトコニッドとパラコニッドの間の切れ込みの下限が低く位置すること等、ライオンの特徴と一致した。標本に付随していた記録や新聞記事から、この臼歯は、1959年の台風7号の影響による豪雨で福井市街地を流れる足羽川が氾濫し、その犠牲になったサーカス団のライオンのものであると結論づけた。当該標本は福井の歴史的な台風の被害を示す直接的な証拠として重要な標本であり、また災害からの復興のシンボルとして建設された福井市自然史博物館に収蔵されていることに意義がある。

キーワード：*Panthera leo*, 1959年台風7号

### 1 はじめに

福井市自然史博物館にはジェーン台風の被害にあったとされるサーカス団の獣骨が収蔵されている。本研究では今まで未同定のままであった獣骨に含まれていた下顎第一前臼歯を再同定、計測および記載を行った。また、当該標本に関する混乱した記録を整理して、当該標本の由来を明らかにした。なお、本稿で用いる解剖学用語の和名は後藤・大泰司(1986)に従った。

### 2 標本の状態

標本番号：FCMNH-Ma 046

標本状態：風化した多数の骨が残されているが、尺骨や肩甲骨などに重複が見られ、明らかに複数個体が混在している。さらに鳥類の骨も同じ箱に収められていた。右下顎の第一臼歯が保存されており、種同定に適しているため、本研究ではこれを検討した。

表 示：標本の取まっていたダンボール箱には“足羽河原営業のサーカス獣(虎? 獅子?) ゼン台風時の被災 獣骨格”と黒マジックで記述されている。

収 蔵 日：記録無し

### 3 記 載

右下顎の第一前臼歯(写真は図1, 計測値は図3,

表1を参照)。当該標本は、タロニッドは退化し、パラコニッドとプロトコニッドの2咬頭が鋭い刃を形成することからネコ科である(茂原・瀬戸口, 1986)。さらに、Hemmer(1966)の示した、ライオンとトラの識別形質を検討したところ、プロトコニッド類側の傾斜(protoconid-slope)が凸であること、頬側下方のエナメル縁が強くS字状にカーブしていること、プロトコニッドとパラコニッドの間の切れ込み下限がトラに比べて低い位置にあることから、ライオンの特徴が確認できた(図2)。

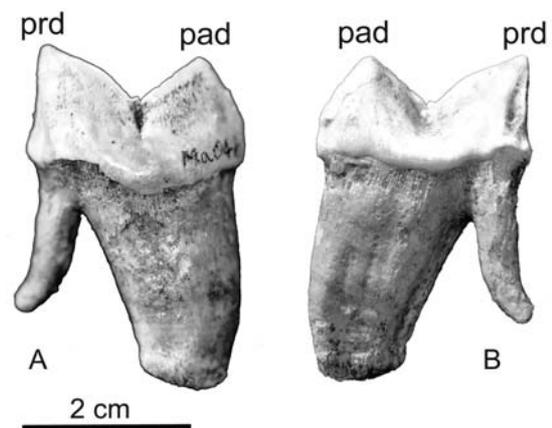


図1：ライオン, FCMNH-Ma046の右下顎第一臼歯。  
A；頬側, B；舌側, スケールは2 cm. pad＝パラコニッド, prd＝プロトコニッド。パラコニッド側が近心(前方)。

\*オタゴ大学 地学部

\*Department of Geology, University of Otago  
360 Leith Walk, PO Box 56, Dunedin 9054, New Zealand

Manamendra-Arachchi *et al.* (2005) ではm1遠位に見られる水平の切れ込み (**horizontal notches**) の数でライオン (切れ込み1つ) とトラ (切れ込み2つ) を識別できているが、当該標本では、表面のエナメル質が破損しているため確認できなかった。限られた標本数ではあるが比較に用いたトラとライオンでは次のような違いが見られた。まず、側面から見た際、パラコニッドの前縁と刃の部分成す角がトラでは尖っており、一方でライオンでは比較的鈍い。次に、パラコニッド類側の斜面に弱いくぼみがライオンには有り、トラにはない。これらはトラとライオンの識別形質である可能性があるが、より多くの標本を観察する必要がある。当該標本のパラコニッドは鈍く、また、パラコニッドの頬側が凹んでいるといった特徴においてもライオンであることが示唆される。

#### 4 考 察

当該標本の由来について検証した。博物館に残された記述には以下の二つがあるが、いずれも混乱が見られる。それらを紹介しつつ、当該標本がジェーン台風による被災ではなく、1959 (昭和34) 年の台風7号によるものであることを述べる。

標本に関する記録として、まず標本の箱に書かれた“足羽河原営業のサーカス獣 (虎? 獅子?) ゼン台風時の被災 獣骨格”という記述があるが、ジェーン台風によってサーカスに被害があったという記録は見当たらない。むしろ、福井市街地を流れる足羽川の氾濫により、当時河原で興行していたサーカス小屋が流失したという出来事は、1959年8月の台風7号の被害として記録されている。例えば、福井新聞 (1959; 図2) では、「猛獣4頭見殺し」という見出しで、“氾濫した福井市を流れる足羽川に、当時河原で営業していた有田サーカスのライオン3頭とトラ1頭が、重い檻に入れられていたため運ぶことができず、増水した川に巻き込まれている”と記している。標本の箱に書かれた情報は、おそらく後年の標本整理の際に、間違えて記録を残してしまったものと考えられる。

もう一つの記述は、福井市自然史博物館の業務等を記録した冊子“沿革史”がある。それには「昭和34年8月4日、災害救助法発令 (桜橋流れる) ライオン、トラ、各1館裏にうめる。」と記述されている。年および月はサーカスに被害をもたらした台風7号と一致するが、日付の記述にも混乱が見られる (台風は4日ではなく、13日ごろ福井に接近している)。さらに、骨格標本はやや赤茶けていることから、長い間土に埋められていたことが推測され、“埋めた”という記述とは整合的である。日付の間違ひはあるものの“沿革史”がもっとも信頼のおける資料と考えられる。

まとめると、FCMNH-Ma 046として収蔵されていた標本は、複数個体の哺乳類および鳥類が混在しており、当時の新聞記事からその哺乳類の骨は3頭いたライオンおよび1頭いたトラのものと推測される。

しかしながら、個々の骨がどの個体に由来するものか調べるのは難しい。そのため、本稿では下顎第一臼歯がライオン *Panthera leo* であると同定するにとどめる。

当該標本には正確な記録が残されていないながらも、大型台風による被害、そしてその対象がサーカスの動物らであったという非日常的な状況が重なっていることから、地元新聞社の当時の記事や、博物館の記録を合わせて、台風7号の被害にあった有田サーカスのライオンと考えられる。福井市自然史博物館 (当時、福井市立郷土博物館) の創設は1952年であり、通常では入手困難なライオンやトラなどの標本を得るために、その遺体を譲り受けたことは容易と考えられる。

福井市は戦災の後、震災そして水害を1940年代に立て続けに受け、困難な時代であった。そして、1952年には“一応の復興が成り、これを記念して福井復興博覧会が盛大に開催された” (福井市, 2011)。当該標本を収蔵する福井市自然史博物館は当時、福井復興博覧会の第二会場の主要施設として建設された (福井市自然史博物館, 2012)。そのため、当該標本は福井の自然災害の歴史を示す実物の資料として重要であるだけでなく、災害復興のシンボルとして創立された福井市自然史博物館に所蔵されている意義は大きい。



図2：福井新聞1959年8月13日、3面より。当時足羽川河原で興行していたサーカス団の小屋は激流に流され、ライオンやトラは重い檻に入れられていたため運ぶことができず、増水した川に檻ごと巻き込まれて水死した、と解説されている。

謝 辞

梅田美由紀博士(元・福井市自然史博物館)には沿革史の記述を教えていただくとともに、本稿を読んでいただき有益なコメントをいただいた。甲能直樹博士(国立科学博物館)にはトラとライオンの識別形質について議論していただいた。Dr. Helmut HEMMER (Institut für Zoologie, Johannes Gutenberg Universität) には文献を入手する便宜をはかっていただき、またトラとライオンを識別する形質について議論していただいた。大阪市立自然史博物館の和田岳氏・西澤真樹子氏にはトラ(OMNH-M2041)とライオン(OMNH-M2633)を、国立科学博物館の川田伸一郎博士・下稲葉さやか氏にはトラ(NSMTM 871, 23565, 33046, 38483)とライオン(NSMTM3533, 31922, 31457, 32000)の標本を比較する便宜を図っていただいた。和田岳氏・西澤真樹子氏(ともに大阪市立自然史博物館)にはトラ(OMNH-M2041)とライオン(OMNH-M2633)の標本を比較する便宜を図っていただいた。福井新聞社には当時の記事(図2)の掲載許可をいただいた。以上の方々には心よりお礼申し上げます。

引用文献

福井新聞, 1959, 8月13日号。  
 福井市, 2011, 不死鳥のねがい(福井市市民憲章)の誕生。福井市ホームページ <http://www.city.fukui.lg.jp/d620/syougai/kensyo/tanjo/ndex.html> (2012年3月30日取得) 福井市自然史博物館, 2012, 選暦記念プレ展—六十年のあゆみと、とっときコレクション大公開—博物館だより, (353)。  
 後藤仁敏・大泰司紀之(編), 1986, 歯の比較解剖学。医歯薬出版株式会社, 269p。  
 Hemmer, H., 1966, Untersuchungen zur Stammesgeschichte der Pantherkatzen (Pantherinae), Part 1, Veröffentlichung des Zoologische Staatssammlung München, (11), 1-121。  
 Manamendra-Arachchi, K., Rohan, P., and Rajith, D., 2005, A second extinct big cat from the late Quaternary of Sri Lanka. The Raffles Bulletin of Zoology, (12), 423-434。  
 茂原信生・瀬戸口烈司, 1986, 裂脚類, 歯の比較解剖学(編集 後藤仁敏, 大泰司紀之) 166-171, 医歯薬出版株式会社, 269p。

A molar of a lion, has been deposited in the Fukui City Museum of Natural History  
 —A circus suffered the typhoon Georgia in 1959—  
 Yoshihiro TANAKA

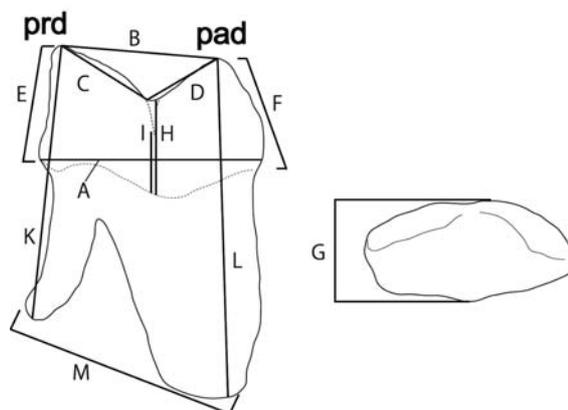


図3：表1で用いた計測値。

表1. ライオン, 下顎第一臼歯(FCMNH-046)の計測値(図3参照)。

TABLE 1. Measurements (mm) of the left m1 of Panthera leo, FCMNH-046 (see Fig. 3).

A, Total length (maximum anterior-posterior length of crown)	25.5
B, Inter apex length (distance between protoconid and paraconid)	17.8
C, Protoconid length (length along superior edge of protoconid)	10.1
D, Paraconid length (length along superior edge of paraconid)	13.4
E, Protoconid height (vertical distance from enamel margin to protoconid apex)	13.3
F, Paraconid height (vertical distance from enamel margin to paraconid apex)	12.9
G, Crown width (maximum labial-lingual width of crown)	13.1
H, Crown depth (vertical distance from enamel margin to posterior angle of paraconid)	11.7
I, Notch depth (vertical distance from base of median notch to enamel base)	6.2
J, Carnassial angle (angle between superior edge of protoconid and paraconid)	115°
K, Anterior height (maximum length from anterior root to protoconid)	31.7
L, Posterior height (maximum length from posterior root to paraconid)	38.5
M, Inter roots length (maximum distance between anterior and posterior roots)	26.0